



社会医療法人社団千葉県勤労者医療協会

千葉健生病院



当院の理念と基本方針

◎理念

私たちは、人権を尊重し、安全・安心・信頼・納得の医療をめざします。

◎基本方針

- 1.患者様の声に耳をかたむけ、心のかよいあう医療をめざします。
- 2.わかりやすい説明、患者様の同意にもとづく治療、援助をおこないます。
- 3.医療、医学の進歩に学び、質の高い、安全な医療をめざします。
- 4.地域に根ざし、いつでも、だれでも安心してかけられる病院をめざします。
- 5.地域連携をすすめ、医療、介護、福祉の充実で安心して住み続けられるまちづくりをめざします。
- 6.社会保障制度をより良くするために友の会、地域の人々と共に行政に働きかけます。
- 7.いのちと平和を守るためにテロや戦争政策に反対します。

千葉健生病院施設概要

◎所在地

千葉県千葉市花見川区幕張町

◎病床数・施設基準（90床）

急性期一般入院基本料4（6床）

回復期リハビリテーション病棟入院料1
（45床）

地域包括ケア入院医療管理料1（39床）

◎リハビリテーション関連施設基準

脳血管疾患等リハビリテーション(I)

廃用症候群リハビリテーション(I)

運動器リハビリテーション(I)

呼吸器リハビリテーション(I)



リハビリ科の特徴

◎リハビリ科の目標

急性期からの廃用症候群防止と、回復期の運動機能・生活動作能力の最大限の改善を援助し、入院前の生活を目標に早期の社会復帰を目指します。

★住み慣れた地域で安心して暮らせるように可能な限り在宅退院を目標にしています。

★入院時より自宅や入院前の生活状況を確認し、安心・安全な生活を送っていただけるように必要に応じ、退院前の在宅訪問を実施、住宅改修や福祉用具の相談も積極的に行っています。

★退院に向け様々な職種と連携を密にし、介護サービスの提案まで行っています。

リハビリ科体制①_{2023.4現在}

◎特徴

- ★男性10名・女性18名
- ★PT18名、OT7名、ST3名が在籍
- ★どの職種も若手～経験者まで幅広く在籍しており、自己研鑽と育成に力を入れています。
- ★産休・育休者数名、小学生以下の子を持つ女性スタッフが3割在籍する女性も働き続けやすい職場です。
- ★組織構成は技士長以下、職種別に主任を配置した職種別運営と、回復期病棟内2つと一般・地域包括病床1つの合計3チームに分けたチーム運営をしています。

リハビリ科体制② 労働状況（2022年度平均）

◎残業時間：約7.0時間/月

◎有休取得率：約92%（※前年度分の繰り越し有休の消化率）

◎平均担当数：

（/スタッフ）	PT	OT	ST
回復期	約4ケース	約7ケース	約9ケース
包括・一般	約4ケース	約12ケース	約2ケース

◎一日一人当たりの平均治療人数：

（/日）	PT	OT	ST
回復期	6ケース	7ケース	8ケース
包括・一般	6ケース	6ケース	2ケース

◎スタッフ一日当たりのリハビリ実施単位： ※実労時間7:10内の実施単位数

（回復期） 約16単位 （包括・一般） 約15単位

※カンファレンス等の多職種連携、会議等の時間も業務時間内に確保しています。

回復期リハビリ病棟紹介

◎特徴：

- ★リハビリに励む入院生活に癒しや楽しみを提供するために
栄養科との合同企画：おやつ・お寿司・かき氷バイキング
- ★生活リズムは身だしなみから
週2回の入浴、毎朝と就寝前の更衣は開設時からの取り組み
- ★病棟リハビリ
集団起立訓練、季節に合わせた催し、レクリエーション



回復期病棟でのリハビリ

(2023.4現在)

◎担当スタッフ数：PT13、OT6、STは他病棟兼任

◎リハビリ処方数：約45ケース

◎提供単位数：平均5.0単位/日

◎家屋評価件数：1件/月※コロナ禍で縮小しています

◎カンファレンス：1ケース月1回

◎特徴：

★中枢疾患が過半数を占めます。残りが頸部骨折や圧迫骨折を中心とした整形疾患です。廃用症候群のケースもあります。

★365日リハビリを実践しており、社会復帰に困難を抱える患者様の支援も積極的に行っています。



地域包括/急性期病棟紹介

◎特徴：

- ★急性期一般病床と地域包括ケア病床の混合病棟であり、病状に合わせた管理/運営を実践しています。
- ★地域包括ケア病床では、回復期リハビリ病棟の対象とならないリハビリが必要な患者様や在宅退院に向けた医療・介護サービスの調整目的、一時的な体調の悪化、レスパイト等、入院目的は多岐に渡り、急性期～回復期まで総合的に対応しています。
- ★生保、独居、身寄りがない、家がない等困難なケースも積極的に受けています。



地域包括/急性期病棟でのリハビリ

(2023.4現在)

◎担当スタッフ数：PT3、OT1、STは回復期兼任

◎リハビリ処方数：平均12ケース程度

◎提供単位数：平均2.8単位/日

◎カンファレンス：1ケース週1回

◎特徴：※現在コロナ病床として一部病床稼働縮小中

★急性期は呼吸器、循環器をベースにした高齢者の廃用症候群（運動器不安定症含む）、地域包括ケア病床には術後の亜急性期の整形外科疾患も比較的多く、幅広い疾患が経験できます。

★365日リハビリを実践しており、必要に応じて休みなくリハビリを提供しています。



リハビリ室の様子



スタッフ
ルーム



リハビリ室
(PT室)



言語療法室



リハビリ室
(OT室)

リハビリ室 & 診療風景



リハビリ室は病院最上階!!
日当たりよく明るい雰囲気
毎日頑張ってます!!



その他の医療活動

◎装具診：

毎週火曜実施。外部から義肢装具士がきます。医師、リハスタッフも立ち合いのもと評価・検討しながら作成します。



◎カンファレンス：

両病棟とも多職種参加で開催しています。主な職種は医師、看護師（介護士）、リハスタッフ、MSW、薬剤師、栄養士、地域連携室等です。



◎各種委員会：

NST（栄養サポートチーム）委員会、転倒転落委員会、褥瘡委員会、感染対策委員会、医療安全委員会、などリハスタッフが関わる委員会も数多くあります。特に認知症ケアサポート委員会の立ち上げを現在進めており、認知症対応の取り組みに力を入れています。



職員育成について

- ★法人内の他施設と共通の「初期研修要綱」に基づき卒1～卒3を対象に初期研修を実施しています。
- ★実りある初期研修を実施するために、職責者及び指導者、各職種のスタッフで構成する「育成委員会」を毎月開催しています。
- ★育成委員会では、各対象者の育成状況を共有し、目標と課題を明確にしています。また、業務に必要な知識や技術を学ぶための基礎学習会の企画、症例発表も卒年毎に課題を設定して運営しています。
- ★法人内の他施設の初期研修者も合わせた合同症例発表や研修会もあります。



職員育成（卒1）

- ★入職時の法人及び院内オリエンテーション
- ★リハビリ科配属時研修オリエンテーション
- ★年3回の症例発表
- ★マンツーマンのバイザー制
- ★上期に業務に必要な最低限の知識、技術を学ぶ基礎学習会を実施（下期もリハビリ科学習会あり）



職員育成（卒2～3）

- ★マンツーマンのバイザー制から自主性を重んじる
チーム内フォロー体制
- ★引き続き症例検討・報告（卒2は2回、卒3は1回）
- ★担当ケースの退院後生活を確認できる退院後訪問
- ★3年目には外部への演題発表
- ★学生のバイザーも段階を踏んで経験できます
- ★リハビリ奨学生の講師も担当し、交流を深めます。

